

## その二 「いわき・さかいフレンドシップサークル(2018)」

訪 問 日 平成30年8月21日(火)  
 訪問場所 大阪府立少年自然の家  
 主 催 者 堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会  
 訪 問 者 餅木 哲郎議長、服部 節子委員(主催者として、鶴山 剛委員)

## ■ 概 要

## 「いわき・さかいフレンドシップサークル(2018)」とは

〇いわき・さかいフレンドシップサークル(2018)は、市議会に届いた一市民の声から2015年に始まった「堺市被災者支援交流事業」の一つとして、東日本大震災で被災した福島県いわき市の子どもたちを堺市に招待して元気になってもらうことを目的として行われました。

〇以下の日程で開催されました。

【8月18日(土)】

堺市内見学(さかい利晶の杜、仁徳天皇陵)

【8月19日(日)】

堺市中学校生徒会役員との交流(堺ブレイザーズによるバレーボール体験、ワークショップ)

【8月20(月)、21日(火)】

堺市立中学校第57回生徒会代表者のつどい(分科会、キャンプファイヤーなど)

〇私たちが訪問した日の堺市立中学校第57回生徒会代表者のつどいは『思慮を巡らし高みへ導け～平成最後の生徒会～』をメインテーマに以下の分科会と全体会が開催されていました。

- A分科会 リーダー会議
- B分科会 発表するぞ
- C分科会 ディベートしよう!
- D分科会 新聞を作ろう!
- E分科会 よさこいやチアを学ぼう
- F分科会 キャンプファイヤーを主催しよう
- 全体会 各分科会からの報告、発表

堺市立中学校

## 第57回 生徒会代表者のつどい

メインテーマ  
『思慮を巡らし高みへ導け～平成最後の生徒会～』

○A分科会	リーダー会議
○B分科会	発表するぞ
○C分科会	ディベートしよう!
○D分科会	新聞を作ろう!
○E分科会	よさこいやチアを学ぼう
○F分科会	キャンプファイヤーを主催しよう

日時 2018年8月20日(月)・21日(火)  
 場所 大阪府貝塚市 大阪府立少年自然の家

主催 堺市中学校教育研究会  
 特活第Ⅲ(生徒会)部会

## 「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」とは

○「堺市立中学校教育研究会特別活動第Ⅲ部会」は、堺市のすべての教員が参加する研究会のうち、生徒会に関わる部会です。（※現在、第Ⅱ部会は活動していません。）

○主に、次の活動を行っています。

○「生徒会代表者のつどい」

●夏季休業期間中に一泊二日で「生徒会代表者のつどい」（平成30年度が第57回）を行い、全43中学校から5名ずつの生徒会役員が参加しています。「生徒会代表者のつどい」は、6つの分科会からなり、「A分科会リーダー会議」では、平成26年度は「いじめ問題」、平成27年度からは「スマホをめぐるトラブル」について取り組みました。

●平成27年度より、10月に「生徒会リーダー会議」を行い、「生徒会代表者のつどい」後の各学校での取組について生徒会長が意見交換をしています。

○「リーダー講習会」

●1月には「リーダー講習会」を行い、1・2年生のリーダー養成に取り組んでいます。そのなかでは、各区の生徒会の代表など9名が教育長と話しあう「生徒会リーダーフォーラム」を、また、10月の「生徒会リーダー会議」以降の生徒会活動の交流の場として、再度「生徒会リーダー会議」を行っています。

## 「キーパーソン」からお話を伺いました

堺市中学校教育研究会特別活動部会の教職員のみなさん

○代表部長である校長先生の統括のもと、生徒会部会の運営委員の教員と若手の教員がプログラムを考え、準備、運営に当たっておられました。先生方は指導者でありながらも生徒を尊重するファシリテーター（促進者）であり、時には生徒と対等なプレーヤーとして楽しさをつくっておられました。



生徒たちの工夫が満載の新聞です。さまざまなアイデアが形となって表現されていました。

教職員のみなさんともに活動を行い、学びを共有していました。



## 予算について

○堺市立学校生徒指導研究協議会より、生徒活動リーダー養成宿泊指導業務として175万円の委託を受け運営を行っています。なお、いわき市からの参加者には、堺市被災者支援交流事業より支出が行われています。

## ■ 「堺が考える社会教育」の観点からみると

ともに学んだり、教えたりするためには

堺市社会教育委員会議提言書 13頁

○普段は接することのない他市の生徒たちと活動をとにもすることで、改めて堺の生徒の魅力に気づいていました。また、他市の生徒とともに活動を行うことは他市の魅力や、新たな発見がたくさんあったでしょう。

### 例えばこんなこと【気づく】

○日頃接する機会の少ない堺市といわき市の生徒たちが、分科会での話しあい等を通じて、お互いの良さを発見し交流することで多くの学びを得ることに気づいていました。いわき市からは堺の子どもたちは優しく親切だったと言ってもらったそうで、日頃接していないいわき市の生徒だからこそ気づいた堺の子どもたちの良さに改めて気づくことができたそうです。

### 例えばこんなこと【表すこと】

○堺市の生徒は、いわき市の生徒にお別れの言葉という形で手紙を書いたそうです。交流を通じて発見したいわき市の生徒の良さや学びなどを含んだ一人ひとりの思いを形に表わせたのではないのでしょうか。

### 例えばこんなこと【分かちあう】

○堺市の生徒が書いたお別れの手紙をいわき市の生徒に渡したそうです。いわき市の生徒と一緒に過ごした堺の生徒との交流を思い返し、帰路につく1時間半ほどの間泣きっぱなしだったということでした。そのことから、しっかりと学びを分かちあっていたと言えます。

チームでまとめた意見を全員で発表し、一体感をもって表すことができました。



堺らしさ

堺市社会教育委員会議提言書 17頁

○いじめをなくすために何をするか考えるという「人権」の観点からみて、お互いを尊重しあう堺らしさのあるものになっていました。

### 例えばこんなこと【人権】

○本事業そのものが、震災を乗り越えようとする人を支えようとする友愛の心に根ざしたものです。堺市の中学生にとって、未だに様々な困難の中にいる中学生から多くを学んだことでしょう。それは、自分の可能性だ

たり、人の温かさや強さだったりさまざまでしょう。今回の生徒たちが取り組んだ課題のひとつは、生徒会として「いじめをなくすために何をしたら良いか」というものでした。この問題は、どこの生徒会でも取り上げたテーマかもしれませんが、今回、堺市といわき市の生徒が議論を重ね「いじめ防止三原則 ～しない 乗らない 見過ごさない～」を提言していました。この標語が堺市といわき市の中学校から広がれば素晴らしいことです。



いじめ防止三原則を全体会で発表していました。堺市といわき市の生徒会の間でいじめ防止の方法を分かちあえた瞬間でした。

## さまざまな「つながり」

堺市社会教育委員会議提言書 21頁

○司会進行を生徒が行うなど堺市の未来を担う中学生たちが交流会の「担い手」となり、主体的に事業を実施していました。

### 例えばこんなこと【物事】

○生徒会リーダー会議の部屋では「ネットいじめ防止」について話しあったことを伝えるためのプレゼンテーションの練習をしていました。「いじめ防止三原則 ～しない 乗らない 見過ごさない～」というスローガンを共有することで、大きな「つながり」を作ることができていました。



華やかなチアや元気いっぱいのよさこいの発表がされ、一体感のあるものになっていました。



〇いわき市の中学生という外に開かれた「つながり」ができていました。今回の交流事業の経験や知識を元に「つながり」をさらに深めていくことになるでしょう。

### 例えばこんなこと【違いを認めあう「つながり」】

〇分科会ごとのテーマがあり担当の教員が指導をしていますが、教える—教わるという関係でなく、集まった者同士、生徒も教員もともに「より良いもの」を創り出すことをめざしている様子でした。

### 例えばこんなこと【外に開かれている「つながり」】

〇外に向かって声を大きく張り上げるといのはそう簡単なことではないと思いますが、良いと思うことはまわりの方々に発信して行ってほしいと思います。

### 例えばこんなこと【その他】

〇堺市社会教育委員会議と堺市立中学校生徒会との「つながり」の発端は、昨年度の「ぶらり社会教育」で「堺市立中学校生徒会代表者のつどい」を訪問したことでした。参加した社会教育委員は中学生の「よさ」に感銘して、その感動を堺市立中学校生徒会に率直に返しています。その「つながり」から、平成30年2月に開催した「社会教育フェスタ」に堺市立中学校生徒会の中学生のみなさんが参加してくれました。（中学生との交流は参加した「大人」にとって、新鮮な経験になっています。）



堺市の生徒といわき市の生徒がともに発表を行っていました。今後もこの「つながり」が深まっていくことを期待します。

## ■ つながるといいな

〇思春期を迎えた子どもたちにとってモデルとなる大人・先輩あるいは友人との出会いは、何にもまして代えがたい宝物となります。出会った方の信念を持って社会に貢献しようとする姿は、つぎの社会を担う子どもの生きざまを勇気づけていくと確信します。そのためにも学校の枠を超えた様々な機会を、社会教育の立場から提供していただけると新しい出会いにつながりができるのではないかと思います。その意味で社会教育フェスタは先駆けをなす取り組みだと感じています。

## ■ 訪問して感じたこと

〇いわき市の中学生と堺市の中学生が、宿泊をともにして一緒にさまざまな課題達成の活動に取り組むというものでした。いわき・さかいフレンドシップサークルは、昭和38年に始まり今年度で57回目となった「堺市中学校生徒会のつどい」を拡大した取組で、いわき市から18人、堺市から200人ほどの中学校の生徒会役員が集っていました。私たちが「いわき・堺フレンドシップサークル」を訪問した日はその最終日で、課題別グループの成果を他のグループに発表するための準備が佳境に入っている時間でした。グループは黙々と作業をしたり笑いあいながら作業をしたりしていましたが、話しかけるととても丁寧な返事が返ってきたのが印象的でした。その後、体育館ですべての分科会の発表がありました。「発表するぞ」では校内美化活動を寸劇でアピールしたり、「よさこいやチアを学ぼう」のは汗いっぱいの踊りと堺市内のチアリーダーの生徒とのコラボで驚きのパフォーマンスでした。「キャンプファイヤー」のチームはオリジナルの歌を披露してくれました。

〇貝塚に自然の家が作られた場所のような山が多くあると思いませんでした。車が進むほどにどこに行くのかなと思っていましたが、素晴らしい別世界の中の自然の家でした。たった一晚なのに子どもたちのチームワークの良さ、協調性、笑顔、自信を持って発表したことなどできる中学生を知りました。今後の活躍を願ってやみません。

## ■ 主催者からのメッセージ

### 社会教育って？

〇子どもたちの横の広がりをつなげる場が、堺市では生徒会活動として認知されてきていると自負します。加えて、世代を超える縦のつながりを作り出していける場が社会教育にあると感じています。子どもたちの新しい社会参画の場も生まれるのではないかと考えます。

### 「つながり」を広げるって？

〇生徒会代表者のつどいは、各学校同世代のリーダーたちが一堂に会して共通のテーマや課題に取り組み、悩みを分かち合ったり物事を共に作り上げ達成感を味わう大切な機会となってきました。いわき市のリーダーが加わり学び感じつながりあう機会となりました。指導をする大人も、子どもたちのつながりから学ぶことができたのではないのでしょうか。

### 訪問してみたいかがですか？

〇中教研国語・書写部会が1月に主催する「百人一首大会」。美術部会の全面協力で行われる「アートグランプリ」、そして中体連主催の堺市総合体育大会での生徒の活躍をぜひご覧ください。

■ 社会教育委員会議の活動や提言書については、堺市ホームページで公開しています。

